

# 新竹市派遣新聞

発行者  
萩原美羽

# 新竹市を訪れて

## 台湾の自然と気候

亜熱帯気候で日本のようにじめじめではなくカラッと暑い。日本では見られない植物も多く、ビーファン博物館の奥の林には台湾にしかないといい木がたくさんあった。



季節風が強く吹く。また、台風やスコールも多い。私たちの滞在中、台風が台湾を直撃した。多くの街路樹が倒れたり看板が飛ばされたりしていた。



三峽で遭ったスコール

## 新竹市の学校

新竹市の建華国中学校には岡山市の公立中学校と異なる点がいくつもあった。

一つ目に英語教育。校内に英語環境センターというものがあつた。空港やショッピングセンターに見立てた教室はまるで本物のようだ。新竹市の子どもはここで生きた英語力を身につけると考える。二つ目にロボット教育。私たちは部品を取り付けたり操縦する授業を体験した。このような授業があるのもハイテク企業の集まる市だからではないだろうか。最後に学校中のペイント。ペイントと言っても落書きではない。見て楽しく、勉強のやる気が出るような絵が教室や廊下のいたるところに描かれていた。こんな明るくてしっかり学習のできる学校に私も通ってみたい。



## おいしい食べ物

台湾にはたくさんのおいしい食べ物があつた。日本でもよく知られているマンゴー、かき氷、タピオカミルクティー、小籠包。そして日本ではあまり見ることがないグアバなど。小籠包は手作り体験をさせてもらったが、形よく包むのはとても難しかった。一方、私たち日本人の口には合わないものもあつた。料理にはナンプラーが入っていることが多かった。また、お茶には砂糖が入っていることが多く、驚いた。



## 感想

台湾に行くのも、ホームステイをするのも、今回が初めてだった。そのうえ中国語も話せず、英語に特別自信があるわけでもなかった。そのためうまくコミュニケーションが取れるかなどたくさん不安があつた。しかし、ホストファミリーのみなさんが温かく迎えてくれたおかげで楽しく過ごすことができた。特に同じ年のホストフレンドは、英語やスマートフォンなどの翻訳機能を使って私にたくさんのお話を教えてくれた。一生懸命伝えてくれることがとても嬉しかった。その分私も自分のことをしっかり伝えなくてはと思った。知っている単語を駆使し辞書を使い、なんとか相手に伝わった時はとても嬉しかった。ホストフレンドとは帰国した今も連絡を取っている。このことをきっかけにこれからの新竹市と岡山市の友好関係がより深いものになればいいなと思う。今回の事業への参加をきっかけに、私は世界のことをもっと知りたいと思った。これから先、色々な世界の事情に目を向けて行きたいと思う。

